

# 『 ぱんだより 』

※パンダからのお便りという意味で「ぱんだより」と名付けました。  
 スパークスのアジア地域における情報発信レポート

第12号(2008年8月13日)「シンガポール、世界の金融不況に勝つ秘訣」



## ライオンの町「シンガポール」

昨今、一部の資源国を除き、多くの国や地域が世界的な金融不安と景気減速懸念の影響を受けています。アジア地域も同様ですが、シンガポールはこの影響を受けていない数少ない国の一つです。また、テマセック(シンガポール政府傘下の運用会社)やGIC(シンガポールの国家基金)などの政府系ファンドが、欧米の金融機関の資本増強に積極的に参加し、世界の金融安定化にも大きく貢献しています。

シンガポールはサンスクリット語でシンガプーラ「ライオンの町」を意味しています。その象徴となっているのは、頭がライオンで体が魚という伝説の動物マーライオンです。これはシンガポールの観光の目玉となっており、昼夜問わず観光客で賑わっています。



## 世界最大級の観覧車登場

そのマーライオンに続く次の観光地として登場したのが今年3月に完成した世界最大級の観覧車「シンガポール・フライヤー」です。高さが165メートルで、約40階建てのビルに相当する高さです。なんと一つのゴンドラで最大28名まで乗車でき、冷暖房完備、UV保護付きということで、シンガポールの強い日差しにも対応しています。もちろん眺めは最高で、シンガポールの街並みはもちろん、天気の良い時はインドネシアやマレーシアまで一望できます。



出所: Singapore Flyer 公式サイト

このような観光スポットと美しい街並みのシンガポールは、アジアの一大観光地としてますます魅力が高まっています。資源国ではないシンガポールは、このような魅力的な国家づくりに戦略的に取り組んできました。

## 貿易立国→金融立国→知財立国

シンガポールはアジアの中でも卓越したインフラを備え、金融の中心地であり、また貿易の中心地でもあります。ではなぜ国土が狭く、産業も少ないシンガポールが、金融立国となりえたのでしょうか？ 答えは、アジアでは珍しく、国を対外的に全面開放するという国家運営にあると考えられます。

シンガポールは、20世紀後半、貿易の中継基地として成功しました。そして現在では貿易立国から金融立国へと発展を遂げ、今後は知財立国を目指す政策が打ち出され、アジアの金融センター及びバイオ技術・ハイテク産業の基地として成長を遂げようとしています。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



# 『 ぱんだより 』

スパークスのアジア地域における情報発信レポート



## 人的資源を有効活用

シンガポールは、資源や国内消費にも乏しい人口400万人余りの小国ですが、「人材のみが資源」(リークアンユー首相[当時])として、人的資源の開発を強化し、海外から優秀な企業や人材を引き入れています。そして、その人的資源の開発により、わずか数十年で先進国をしのぐ国際競争力を有するに至っています。アジアをはじめ世界から集まった優秀な頭脳集団は、シンガポールでの起業と事業拡大、さらには国家の競争力を支えているのです。また、海外の富裕層の流入もシンガポールの消費市場に高い購買力をもたらしました。

余談ですが、世界的な投資家であるジム・ロジャースは、シンガポールの金融ビジネスの高度なインフラと、子供のための世界最高峰の教育環境やヘルスケアなどを考えて、シンガポールへの移住を判断したようです。

## 富裕層の消費の経済効果

シンガポール政府の統計によると、今年上半期25万シンガポールドル以上の高級車の販売台数は1,567台となり、前年同期比16.2%増と2桁台の伸びとなりました。うちBMW388台(60%増)、ボルシェ201台(21%増)、アウディ131台(285%増)でドイツ勢が上位3社を独占しました。ガソリン代の上昇を背景に乗用車全体の販売が10%減少したのと対照的な結果となりました。これは富裕層の国内流入による消費下支えが背景にあるとみられます。ガソリン価格が高騰する一方で、高級車販売への影響を感じさせない富裕層の消費力には驚きです。

一方、シンガポール政府は、カジノの負の影響を様々な方で封じ込め、2009年までに家族でも楽しめるカジノ総合リゾートを2箇所にオープンすることを決定しました。このリゾート建設の予算は50億シンガポールドル以上(約3,300億円)で、シンガポールにいる富裕層の多様な消費ニーズに対応し、シンガポールのGDPを0.3~1.3%押し上げると言われています。

このように、世界的なインフレが懸念される中、貿易立国、金融立国さらには知財立国として発展を遂げるシンガポールには、日本も学ぶことが多いと思います。

(編集後記) シンガポールは、アジア食文化の十字路口と言われ、他民族の食文化が融合しています。先日その家庭料理を日本で食しました。シンガポールならではの豪快な魚介料理から、屋台文化で培われた庶民の一品料理まで幅広く堪能しました。さすがシンガポールの優秀な頭脳を支える台所、味もすばらしいものでした。



## 高級車の販売台数(上期)

	2008年 (台)	2007年 (台)	増減率 (%)
アウディ	131	34	285
マセラッティ	75	20	275
ロールスロイス	7	4	75
ジャガー	31	19	63
アストン・マーティン	16	10	60
BMW	388	243	60
ロータス	3	2	50
フェラーリ	35	27	30
ボルシェ	201	166	21

出所: ストレーツ・タイムズ



(知恵越え悟る&見に行っちゃイナ)



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。